

### 別紙-3 廃棄物の排出方法

廃棄物の排出方法は、廃棄物海洋投入処分の許可等に関する省令（平成17年環境省令第28号）第6条及び同省令別表のとおり、「当該船舶の航行中に排出しない。」に適合するため、具体的には以下の方法によって廃棄物を排出する。

サロマ湖漁港（第2湖口地区）における土砂しゅんせつ、運搬、排出による一連の作業は、しゅんせつ区域での作業性を考慮して着手から完了まで1日最大4船団\*（グラブしゅんせつ船と押船で形成される1船団×4）にて対応し、しゅんせつ能力・排出に係る工程を考慮すると、海洋投入処分を1日最大8回実施する。

しゅんせつは、グラブしゅんせつ船（容量1,200 m<sup>3</sup>を想定。ただし、吃水の制限があるため、1回の運搬量は最大700 m<sup>3</sup>/隻を想定）を押船によりしゅんせつ区域へ移動させた後、グラブによるしゅんせつ及び自船への直積みを行う。しゅんせつ位置の確認は、G N S S\*にて行う。航行中は漁船等の他の船舶航行や既設構造物、施設等への衝突には十分注意する。

運搬・排出は、押船によりグラブしゅんせつ船をしゅんせつ区域から排出海域に移動させた後に停船し、自船に積み込んだ土砂をグラブによって排出する。排出時には航行は停止し、潮流の流向に配慮のうえ、排出中も自船位置を適時確認する。1回当たりの排出量は最大700 m<sup>3</sup>/隻を想定し、処分に要する時間は1～2時間である。

また、排出海域内に堆積する土砂の堆積厚ができるかぎり均等になるよう、各回の排出開始地点は排出海域内の一箇所に集中することなく均等になるよう留意する。さらに、潮流や風に注意し、間違いなく排出海域に投入するようにする。具体的には、G N S S\*により投入箇所の位置を確認し、投入箇所が偏らないように位置を調整して排出する。

#### (1) 使用船舶

一般水底土砂の発生から排出するまでの過程において、使用する船舶の仕様及び使用台数を表4に示す。

表4 使用する船舶（予定）

工種	使用船舶	仕様	使用台数
しゅんせつ・排出	グラブしゅんせつ船	鋼 D8～11 m <sup>3</sup> 、最大積載容量：1,200m <sup>3</sup> ただし、運搬量は最大700m <sup>3</sup>	1
運搬	押船	鋼 D2,000PS 型	1

注) 1. 使用台数は、1回の排出に使用する台数を示す。

2. 押船とは、作業船の船尾に連結して一体形の船のようにして押し進めるための船舶である。

\* 船団：グラブを備えたグラブしゅんせつ船（非自航船）とグラブしゅんせつ船を移動させるための押船からなる。

\* G N S S：GPSに代表される衛星測位システムであり、緯度・経度の位置情報を取得できる。

## (2) 排出手順

廃棄物の排出は、以下の手順で実施する。

- ①【しゅんせつ】 グラブしゅんせつ船により、サロマ湖漁港（第2湖口地区）のしゅんせつ区域（別紙-1 の図 1 参照）の海底を掘削し、土砂を自船に直積みする。しゅんせつする位置はGNSSを用いてしゅんせつ範囲内であることを確認する。
- ②【運搬】 しゅんせつ土砂（700 m<sup>3</sup>/隻/回）を積み込んだグラブしゅんせつ船を押船により排出海域へ移動させる。
- ③【排出】 しゅんせつ土砂は、図 7 に示すように自船のグラブにて排出する。排出に要する時間は1～2時間である。到着後、排出終了までの船の位置はGNSSにより測定し、その記録は廃棄物記録簿に記載する。排出量は、積み込んだ土砂量を測定する方法（船上で船艙上端等と積載土表面の比高を測量し、積載した土量を算定する）より測定する。これらの記録は廃棄物処理記録簿に記載する。排出する位置はGNSSを用いて、排出海域内であることを確認、記録する。
- ④【帰港】 しゅんせつ現場もしくは係留場所へ帰港する。

排出完了後、グラブしゅんせつ船を押船によりしゅんせつ区域へ移動させ、再び、上記手順（①～③）を行う。なお、就業時間の関係や気象海象条件により、最大処分量の半分程度（300 m<sup>3</sup>/隻）を積み込んだ段階でしゅんせつを中断し、運搬・排出を行い、帰港する場合も想定する。

上記を日出から日没まで、最大4船団（基本体制は2船団）で行う。

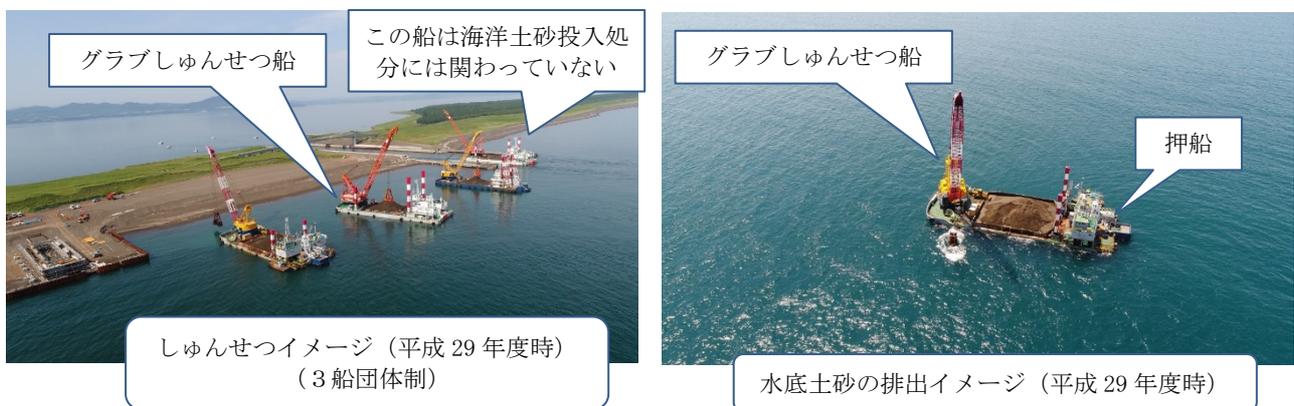


図 7 グラブしゅんせつ船と押船の写真（左）及び水底土砂の排出方法（右）

### (3) 排出回数（頻度）

排出海域への1回あたりの最大排出量は、最大積込可能量に相当する700 m<sup>3</sup>である。

排出回数は、必要しゅんせつ量（1年次：53,000 m<sup>3</sup>、5年次：105,000 m<sup>3</sup>）及び最大積込可能量から、以下を計画している。

- ・ 1年次：53,000 m<sup>3</sup> / 700 m<sup>3</sup> = 約76回
- ・ 5年次：105,000 m<sup>3</sup> / 700 m<sup>3</sup> = 約150回

ただし、就業時間の関係や気象海象条件により、積込量を半分程度（300 m<sup>3</sup> / 隻）に減ずる場合は、排出回数は上記より増加する。